

令和5年度入学試験問題

日本語支援（総合問題）

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 解答用紙は3枚です。
4. 各解答用紙には受験番号を記入する欄がそれぞれ1箇所あります。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

I 以下の文章を読み、後の問いに答えよ。

菌^(註)によって振る舞いをコントロールされる生物は植物だけにとどまらない。より複雑な体のつくりをしている昆虫も、この小さな乗っ取り屋のギセイとなる。その中でも特に目を引くのは、菌に寄生されてゾンビのようになってしまったアリたちだ。

オフィオコルディセプスという昆虫寄生菌に寄生されたアリは、まるで菌にコントロールされているかのような異常行動をとった後、植物の茎や葉脈に噛みついて絶命する。その奇妙な行動パターンが生ける屍であるゾンビを髣髴とさせることから、研究者らはこの菌に感染したアリを「ゾンビアリ」と呼んでいる。

ゾンビアリの行動パターンについて、タイの熱帯雨林で行われた研究成果をもとに見ていきたい。この研究で対象とされたオフィオコルディセプス・ユニラテラリスはオオアリ属の働きアリに寄生し、これをゾンビアリにしてしまう。このアリは樹上性で、林冠(枝葉が繁る森林の上層部)に巣をつくって生活している。そのため、働きアリが林床に降りてくることはめったになく、餌を求めて徘徊する際も決まった道を歩くという。

ところが、菌に寄生されたゾンビアリはこの道から外れてランダムに歩き回り、繰り返し痙攣を起こして林床に落下してしまう。落下したゾンビアリは再び歩行を開始するが、林冠にある巣に戻ることはなく、近くの低木に登り始める。

この風変わりな放浪の末、低木の葉上に至ったゾンビアリはその大顎で葉脈に噛みつき、死を迎える。この葉脈を噛む行動は「デスグリップ」と呼ばれている。デスグリップは正午あたりに集中して起こっていることから、ゾンビアリは太陽の位置や気温、湿度から何らかのシグナルを得て行動している可能性がシサされている。ゾンビアリの大顎は葉脈に深く突き刺さっており、このおかげでアリの体は葉上に固定され、死後も地面に落下することはない。

興味深いことに、こうして死んだゾンビアリは、植物の北側かつ地表から約 25 センチメートルの高さという特定の位置で集中して見つかるという。このゾンビアリの「墓場」は気温湿度ともに菌の生長に適した環境となっているようだ。好適な環境で増殖した菌は死体の内部を菌糸で満たし、やがてアリの頭のつけ根あたりから

キノコの柄が伸び始めるのである。

宿主が死んでから1～2週間が経つと、伸び上がったキノコの中で子^し囊^{のう}胞子と呼ばれる有性胞子が形成され始める。やがて成熟した子囊胞子は空气中に^③散布され、新たな宿主に感染してさらなるゾンビアリを生み出すことになる。

ためしにゾンビアリの死体を「墓場」から^④別の場所に移してみたところ、菌の繁殖成功率が大きく低下した。ゾンビアリの死体を林床に置いた場合、24時間以内にそのほとんどが動物によって持ち去られてしまった。また、死体を低木層にある「墓場」から林冠に移動させた場合、菌はある程度生長したところで活動を停止し、正常なキノコの形成には至らなかったという。

どうやら、オフィオコルディセプスがゾンビアリの死体内で生長してキノコをつくり、胞子の散布を成し遂げるためには、「墓場」の好適な環境が必須なようだ。まるで、菌が宿主の働きアリをコントロールし、自身の繁殖に適した場所まで運ばせているかのようである。

脳も神経も持たない菌が、より複雑な体のつくりをしている昆虫の行動をどのように操っているのだろうか？ 菌がアリをどのようにコントロールしているのかを調べるため、オフィオコルディセプスを異なる複数種のアリに感染させる実験が行われた。その結果、この菌は特定の種のアリに感染した時に限り、その行動をコントロールすることができることがわかった。

また、オフィオコルディセプスと複数種のアリの脳を一緒に培養する実験を行ったところ、菌はアリの種ごとに異なる代謝物を生産していることがわかった。これらの代謝物がアリの脳にどのように作用し、Xの一連の行動を引き起こしているのかについてはまだ詳しくわかっていない。

(注) この文章における「菌」とは「真菌」のことで、菌糸の形で増殖し、条件が整うと子実体(キノコ)を形成して胞子を散布する。

(出典：白水貴『奇妙な菌類 ミクロ世界の生存戦略』NHK出版、2016年、123-127頁に基づき、一部改変)

問 1 下線部Ⅰ「ギセイ」、下線部Ⅱ「シサ」をそれぞれ漢字で書け。

問 2 下線部①「異常行動」について、菌に寄生されたオオアリ属の異常行動の具体例として適切なものを下記の選択肢の中から二つ選び、記号で答えよ。

- a 低木に登ること
- b 林冠に営巣すること
- c 地上に落ちること
- d 決まった道を歩くこと

問 3 下線部②「生ける屍」と同じ文法的特徴を持つものを下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a 泳げる大浴場
- b 食べれる野草
- c 悩めるキャプテン
- d 求める人材

問 4 下線部③「散布」について、A、Bの2つの問いに答えよ。

A 「布」の意味として適切なものを下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a 広げる
- b 集める
- c 増える
- d 消える

B 「布」が下線部③と同様の意味で用いられている二字熟語を一つ挙げて漢字で書け。

問 5 下線部④「別の場所」は、本来の「墓場」とは何が異なる場所なのか、端的に書け。

問 6 に入る語句として適切なものを下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a 寄生から孢子散布まで
- b 落下から低木に登るまで
- c 放浪からデスグリップまで
- d デスグリップから孢子散布まで

問 7 本文の内容に即して最も適切であるものを下記の選択肢の中から一つ選び、記号で答えよ。

- a 植物の北側かつ地表から約 25 センチメートルの高さに「墓場」が形成されるのは、気温や湿度が菌の生長に適しているためである。
- b デスグリップが正午あたりに集中して起こるのは、アリが太陽の位置を目印にして方角を判断しているためである。
- c 「墓場」が地表に形成されないのは、地表では雨が降るとアリの死体が流されてしまい、菌が生長できないためである。
- d オフィオコルディセプスが様々な種類の代謝物を生成するのは、どのような種類のアリにでも寄生してその行動をコントロールするためである。

II 次の文は、「対話の相手をどのように呼ぶか(話しかけるか)」について書かれた文章である。これを読み、後の問いに答えよ。

Social situations determine to a large degree how we address each other. When people are introduced in a professional or business situation in the United States, they frequently first address each other as *Ms. Smith* and *Dr. Jones*, using what linguists call TLN (title, last name). At some point, perhaps in that conversation or perhaps in the future, one of the speakers may suggest that the other give up TLN and use the first name (FN): *Call me Fred*. Which of the speakers does this has everything to do with issues of power (based on age, (1) position, occupation, and gender). A professor is more likely to ask students to disregard her title and call her by her first name than vice versa; indeed, the professor may already have presumed upon her position and addressed the (2) students by their first names without having been explicitly told to do so. (3) It may be unthinkable in the context of a particular department for students to initiate an FN form of address with the faculty. In an informal situation, people of the same age, especially younger people, may begin the interaction on an FN basis. This is an aspect of language that has changed significantly in the last 30 years in the United States and Europe, with the trend toward more informal address systems. We do tend to keep a certain distance with some people, however. You probably address your doctor as TLN, for example; this is an aspect of the power (4) relationship between doctor and patient.

Japan has a traditional address system that shows no signs of disappearing. It is part of an extremely complex system of honorifics that we cannot lay out completely here. We will mention that Japanese has three common levels of markers for what in English would be *Mr.* and *Ms.* Only one level is marked for (5) gender. At the highest level is *sama*, which gets attached to last names. *Tanaka-sama* is either Mr. or Ms. Tanaka, treated with a great deal of respect and social elevation. Everyday usage is marked by *san*. *Tanaka-san* refers to

Mr. or Ms. Tanaka, with due respect, but with Tanaka not elevated above the speaker. *San* can also be used with first names, though in general Japanese use first names less than Americans do. More informal are *chan* (female) and *kun* (male). *Chan* and *kun* are frequently used with first names (*Ai-chan*, *Ken-kun*), particularly with young children, though *kun* can be used with last names and is so used in business situations when older colleagues are addressing younger ones (both male and female) familiarly.

(出典：Steven Brown and Jodi Eisterhold. *Topics in Language and Culture for Teachers*, University of Michigan Press, 2004 年, 51-53 頁に基づき, 一部改変)

注

address [動詞]呼びかける, [名詞]呼びかけ

linguist 言語学者

presume upon ~を特権的に利用する

department (大学の)学部

faculty 大学教員

honorific 敬語, 敬称

問 1 下線部(1)の *does this* とはどのような行為を意味しているか, 説明せよ。

問 2 下線部(2)の *vice versa* は, 先行する部分を受けて「その逆」と訳すことができるが, 本文ではどのような内容を表しているか, 具体的に述べよ。

問 3 下線部(3)を自然な日本語に訳せ。なお, 下線部(3)は *the professor may already have*「教授はすでに~したかもしれない」に続く部分なので, これも訳文に含めよ。

問 4 下線部(4)にある doctor と patient の power relationship とは、一般的にはどのような関係か、説明せよ。

問 5 下線部(5) Only one level is marked for gender とあるが、具体的には何のことを言っているか。one level が何を指すかをはっきり述べて、説明せよ。

問 6 本文で説明されている kun と chan の使い方は、日本語母語話者からすると、完全に満足できるものではない。あなたは、どのような点が物足りない(不適切な)説明だと思うか。不適切と思う箇所を一つ選んで指摘し、それがどうして不適切か、を説明せよ。

問 7 次の日本語を、自然な英文に訳せ。

「最近では、クラスメートを「あだ名」ではなく、「さん」をつけて呼ぶように指導する小学校が増えているそうである。」

Ⅲ 以下の文章を読み、後の問いに答えよ。

多田道太郎『日本語の作法』の中に、大変興味ある話が紹介されている。主人公はアルゼンチンから日本に来て日本語を勉強していたドメニコ・ラガナ氏——そのラガナ氏が初めて日本語の文学作品を読もうとして、見事につまずいてしまったという話である。問題になったのは、幸田文の『流れる』という作品、その冒頭の次の文であった。

(A) このうちに相違ないが、どこからはいつていいか、勝手口がなかった。

ラガナ氏がいろいろと考えた挙句、この文章から引き出した解釈は次のようだったとのことである。

ある場所に家が一軒(あるいは数軒)在る。その家は現在では、何か別のもの、おそらく別の家と相違していない(あるいは、昔とは変わらない)。だれかがだれかにむかってこう質問する。だれかが(あるいはだれが)、あるいは何かが(あるいは何が)どこから入って良いか、と。飛躍。過去には、勝手口がなかった。^①

著者の多田氏も論じている通り、「日本人にとってはじつに平明な文章である。ほとんど誰もつまずくことはあるまい。」まさにその通りである。しかし、外国語として日本語と取り組む人にとっては、必ずしもそうではないわけである。

ドイツから日本研究で留学している大学院学生——私の経験ではドイツの大学の日本学科の学生としては、文句なくトップ・クラスに入る学生——が、ある時、日本語教育に関心のある日本人学生にクラスでこの話を取り挙げたのを聞いた後、私のところへやって来て「私も分かりません。ショックです。」と話した。彼女は、能とベケットについての博士論文を準備中の学生である。聞いた私の方もかなり「ショック」であった。電話で話していると、外国人であることをほとんど気づかせないくらい日本語に上達している彼女であるが、その彼女にして、なお、という^②ショックであった。

先程のラガナ氏の「解釈」をよく読んでみると気のつく通り、ラガナ氏をつまづきの原因の一つに、文の〈主語〉への強いこだわりがあったように思える。書き出しの部分は「このうちに相違ない」という所までで、確かに一つの〈文〉である。〈文〉であれば、西欧的な言語の常識で言えば〈主語〉があるはずである。(私たちが中学校で英語を習い始めた頃、「この文の主語は何か」と、ほとんど繁雑な^③くらい聞かれたという記憶が誰しもあることであろう。)

私たち日本語の話し手であれば、「この文の主語は？」と聞かれても、「特にないよ」と気軽に答えることが出来よう。もし、どうしてもとさらに迫られれば、多分「(^④)、といったことなのだろうが、表現はされていない」とでも答えるであろう。しかし、西欧的な言語の常識からすると、文の〈主語〉はどこかに明示されているはずなのである。

多分、こういう経緯があったのであろう。ラガナ氏が迷った挙句、到達した結論は、「相違」が〈主語〉であるということであったらしい。(これはまた、私たちに^⑤は不可解に思えよう。しかし、〈相違が存在しない〉という意味にとるならば、確かに「相違」が主語という判断は可能なわけである。)

これがつまづきの始まりであろう。これがきっかけとなって、議論はますますあらぬ方向へと進んで行く。「相違」といえば、〈何かと違っている〉ということである。それでは、この〈何か〉とは一体何なのだろうか。少なくとも二つの可能性がある——一つは、(^⑥)ということ、もう一つは、同じ問題の家でよいのだが、(^⑦)ということ、しかし、どちらの解釈が正しいという手掛りはない——まさに論理的な思考展開なのであるが、最初のボタンを掛け違ってしまったために、どう仕様もないちぐはぐさが増大して行くばかりである。

ラガナ氏の戸惑いの跡をこれ以上詳しくたどってみることは必要ないであろうが、残りの部分についても、「どこからはいつていいか」と言った話し手は誰なのか、また「誰」あるいは「何」がはいるのか、など、〈主語〉が気になりになる問題点はまだ尽きない。

(出典：池上嘉彦『日本語と日本語論』ちくま学芸文庫、2007年、261-264頁に基づき、一部改変)

問 1 ラガナ氏がここで下線部①「飛躍」という言葉を使った理由を考えて書け。

問 2 下線部(A)について、波線部分「日本人にとってはじつに平明な文章である。ほとんど誰もつまづくことはあるまい」とある。日本語の学習者にもわかりやすいように下線部(A)の解釈を、言葉を補って分かりやすく 50 字以内で説明せよ。

問 3 下線部②「彼女にして、なお」が表すのと同様の内容を、言葉を補って完全な文の形で、20 字以内で書け。

問 4 下線部③「繁雑な」という語を使った文を考えて書け。

問 5 (④)に入る表現を考えて書け。

問 6 下線部⑤「私たちには不可解に思えよう」とあるが、不可解に思えるのはなぜか。その理由を説明せよ。

問 7 (⑥)と(⑦)に入る表現をそれぞれ考えて書け。